

十字録

聞書全

和装本

ケ 5

44

157





大坪本流十文字録 口傳書

易之書ハ世ヲ以テ馬之吉凶ヲ分書也凡漢ニ占シテ
 ハ易傳ト云者ヲ以テ吉凶ヲ分テ是ヲ定ム是則
 伏羲天下ニ五タリシ時ニ黃河ニ竜馬出其馬一
 十二至ル旋毛在テ天數ニ世五地數三十成ル夏ヲ
 伏羲是ヲ見テ天地之數五十五ナル夏ヲ知テ
 天地之性ヲ立ル所由是也大和ニ天之璣駟ト
 云ハ天照皇太神之乘ラセ玉フ所之馬也天
 熊人ヲ遣レテ其馬ヲ取テ乘玉フ其馬ニ

凡ハ白星在是亦也。蓋旋毛ヲ述ニ作ニ
十字街中^{カイ}之心也ト云ルハ物之集ル所南
北東西ヨリ物之ヨトク所ヲ述トハ云フヨク子
モ榮衛之流行血脉之滯文也故ニ述ニ作
之亦述ハ古クナス所也。神傳ニ述ト云ク
有故ニ述ニ作テ十字街中心成ルカ故ニ十字
録トハ言スルモノ也。述ノ字義十二人ヲ書タル
ナリ是和字也。漢字ニハス其形^十北ト是
ハ人ナリ南北ヨリ東西ヘモ行々キ^冊方一行卦



トト夕ル歎之文字也。廻毛モ經滯テ人ノヨト
ムカ加ク有テ其經絡上ヘモ下ヘモ右ヘモ左ヘモ
其精ニ隨テ立ルカ故ニ述ニ作ル也。



大凡述者血脉經絡流行之滯文也。漢ニ旋毛
傳ニ述ニ作テ十字街中ノ意也。十^也故ニ廻毛
ニ作テ又可也。古来ハ毛色ニ因テ吉凶相克相生
ヲ撰ヒ今世ハ專ニ旋毛ヲ以テ吉凶相克相生
凡吾朝ハ強テ之ヲ實トセズ唯馬ノ強弱ヲ撰
ヒ旋毛毛色ニ拘サレ也。天馬ハ行早出路之要

畜ナレハ強剛ヲ以テ吉トスヘキ者也

△前ニ説カ如ク水ノ精流レテ向ニ畜レハ却テ欲又
岩ニ當レハ欲海川ノ内ニ深キ穴アレハ亦欲其
如ク人ノ頭上ニ透有唇ノ下咽膈足手ノ指ノ腋
ニ廻毛アルモ精滯テ血脉滯文ノナルハ故ニ
廻毛アリト可知其如ク馬ニ廻毛アルモ右ニ
理ヲ押テ可知也漢ニ旋毛トハ是易经ニ
及馬経其外和国ニ渡タル相馬療治ノ書
ニ旋毛ノ文字出タリ此ニ作ル言ハ大和ニ

於テ久シキ文字也大己貴尊八百八文字之内也
畢竟廻毛ニ作ルト知ルヘシノ右来ハ毛色ニ依テ相
克々生シテラトハ漢土ニハ毛色ヲ以テ用名有愛
后氏ハ以テ金徳王タリ色ハ黒ヲ尚フ故ニ戎夏ニハ驪
ニ乘殷人ハ水徳ヲ用色ハ白ヲ尚フ戎夏ニハ韜
ニ乘白馬也周人ハ木徳ヲ以テ色ハ赤ヲ尚フ戎夏
ニ驂ニ乘腹白馬也象語ニ帝之高ニ委ノ又
近世事旋毛ヲ以テ吉相ヲ分ツトハ正保以来
東此夏シ云傳夏也古昔ハ其欲依ハナキ

吉と見エタリ塩谷判官カ竜馬成トテ進奏
シタルモ其馬ニ四十二之旋毛ト有り然ラハ善
之ニハ二十五旋毛ヨリ外ハナキモノ也其余ハ悪
キトナリ其比返ハシテ不撰カ故ニ判官モ
天子ヘハ献シタル也又天正天文之比モ秀吉
公ハ月毛之馬ニ悪キトアリト相シタルモノ在
秀吉怒テ此之馬ニ匹夫ヨリ乗テ天下平
均シタル馬何リ悪キト云フシ尤様ノ吉
未ノ四ニ残レハ大キニ馬ノ害ヲナスト云ナリ

其者ヲ咎ニ落スレト仰ラレシモ其時返ハ
シテ不撰ノ證拠ト知ルヘシ其北細川幽齋
之妻ヲ知レル人ナルカ故ニ折節傍ニ侍テ取
家將凶ノ罪敵シ云テ其料ヲ謝ストナリ
其歌ニ月毛ニハシカル雲モナシ吉悪モトテ向カ
トイハレケレハ秀吉之馬ハ月毛也月毛ニハイ
カヤウナル悪ト有テモ善トナル自余
ノ馬ニハ悪ト有ハハ悪キコト也是取家ノ習
有リトノ云ヘリ秀吉之馬モ月毛ナレハ悪モ

轉メ今天下大平之統シナシタル馬ト仰ラ
レシトモ云傳ハタル也。和朝ハ強テ之ヲ實
トセス此詔ハ吾國之武士之馬ヲ用ユハキ
金言ト知ルヘシ昔時日本武尊及譽田皇
尊ニ到ルマテ天子之正統タル人ハ葦毛
馬ニ召レケルナリ是性ニカ、ハラケルコト
又義経ハ火性大夫黒ハ水性水冠火ト冠
タレ其馬ニ乗テ平家ヲ追崩レ天下
平均ス秀吉ハ火性ニテ月毛ハ金性火冠金

冠シタル馬ニ召サレケレ其禍ナク天下
平均シタル也古来之武士之詞ニモ馬之強
ク是強キツコソ稱羨シテハ乗ソレテ旋
毛毛色之変ハ更ニ日本之武士之不言ハ
莫也楠登書ニモ長三寸斗有テ刀量強
ク遠行ニ勞カルシ吉トコソ書此詔ヲ以テ
旋毛毛色ニカ、ハラケルヲ知ルレ。行軍
出路ハ馬ハ軍之足トナル故ニ行軍ハ書
出路ハ遠乗ヲ走スルノ要ナリ此ニツノ用カ

ルカ故ニ故弱馬之及ヘキ所ニ亦ス 隆剛ノ
馬ナレハ悪旋毛モ却テ吉更ト也 相尅之
馬モ却テ相生トナルト可知者也 昔唐土
ニモ瘦良ト云人 的顔トテ額ヨク口ノ内返白
筋道テ悪相ノ馬ヲ持リ此馬至々メニ悪相
馬也 日城ニテモ位牌作ト云馬也 殷結ト云
人 庚良ノモトヘ来テ 其音ヲ告賣替給ト
云 庚良卷云 然ハ仰任ナレ 乍去 吾為徳トテ
賣メラハ買人ノ為 悪カリテ 亦野ニ放ナ
ハ 飢テ死ナレ 唯持合タルコソ 縁 ナラメトテ

終賣サリケリサアレハ 其凶相モ却テ吉相
トナリケルト 或書ニ見タリ 誠禍福ハ己ヨリ
出ルト云 理達テ至明ノ人ナリハサモ有ヌレ
然レ今世汚濁ノ人ハ善悪ノ相ニナフミテ善
シ脱 悪シカナシムユヘ吉凶ヲ撰ヒ忌タルコソ
又此以吉凶ヲ云ハ此ハ此占ノ如クシ 遠国ナトハ
行テ帰ラヌ人ヲ占ニ四ツ正ニテ男ハ左手女
ハ右手ニ攝ヲ持テ 攝ノハシニツリテ此
歌云 四ツ正ヤ四ツナカ浦ノウラカトニウラニサレカレ
四ツ正トノ神 スフケトヤヤフケノカニモト
ハハヒナ行合ウラミサニヒヨ

必往來ノ人詔テ 通ルトナリ △安徳帝御産之時
一条五ノ橋ニテハ 糸ノ二位殿 台ヲ南セラルル十二人
ノ童子同音ニ 摺ハ何スリ 国王ノ 摺八重ノ塩
浴ノ浪ノヨセスリト云 盛長記出ル

○吉相也

○珠目之止 類ニ有此馬 余長シ 何タル 惡旋アル
馬成凡珠目止正シキ 則ハ凶ヲ 轉レテ 吉トナ
リ 乘人壽シ 延家富国 治ル大吉トス 漢
ニ壽星ノ 旋ト云是也 今代眉四ノ 旋トモ

云也 △是シハ 條流ニテハ 生之 止正云リ 〇當原
ニ珠目之止 珠ハタトヨムヨキ 珠ハ光リ天ニ向
テ其光州ヲ 受ル此止 頸上ニ珠ヲ 戴キタルカ
如ク正而ヨリ 見ルニニ方カ子 真中ニ有テ 日輪
光照ノ有 如ク正クハトウシ 吉トス 故ニ珠目ト
号目ハ日月ノ 精也 日月ヲ以テ 性余ツ 保ツ
故ニ魂魄ノニウレニ 珠ト云リ 又珠ハ玉ナリ 余也 其
玉正シク 額ニアル 時ハ其馬ノ 余長シトハ 相スル
コト也 余長ケレハ 惡モ 轉ノ 吉トナルハシ 礼記

ニ福之奈、壽キナリ凡記セリ又乘人モコト
フキツノフルト云モ其因縁也壽シノフルト
キハ自家モ富ミ国モ治ルカ故ニ此正レキ
シ以テ右ノナス時ハ壽命長遠ニノ家富
国治ルトハ記セリ漢ニ壽星之旋ト云モ右
ノ理ニ等シキ也此正ソ星ニ見タル其ハ馬也
两眼ハ日月ニ見テ額之正ソ星ニ見テ三光
正レク相兼タル心ニテ壽星ノ過トハ号ル
モノ也大言ト漢ニモ相スル也此ノ過曲ト其方

一馬ノ言曲ルト知ルヘシ此正トハアカリヌクレ正
暉ト知リ下レハ下暉トスル又^{十日}上中^{下日}下凡知
眉山ノ過ト云ハ此正トハカニ玉輪トアル故シ
見テ号ルト知ルヘシ文字之心ニテ能義理ハ
スメリ精シムスニタル正依正ソ吉スルナリ
○蓬萊之正珠目之旋之上ニアリ此馬命長レ戦
場ニ駕シテ高名シ主上ニ仕テ^{繁榮昌諸}
人ニ尊敬セラレ和意安樂ニシテ珍室ヲ得
ル最上ノ大吉也此正ニツアル時ハ日月ノ旋ニツ

アル時ハ三光ノ旋ト云也 此は珠目之上蓬
来ノ鬘キハニアリ 精外レハ却テ廻毛シナス
モノ也 其処馬ノ躰ノ内ニテ頭上 勢高シ
故ニ蓬萊富士ニタトヘテ 蓬萊ト云 其所
アラハレタルは放蓬萊ト云也 此は吉ニ
トツテ占シナスハ昔蓬萊山ニハ不老不死
之草有 徐福ト云人取ニ来ルト云古史モ有
徐福奉始皇大夫也日本一来リ 其不老不死之山ニタト
再不帰 秦氏之元祖ノ由
ヘタル 髪ノ内ニアルはナルカ故ニ此ノ馬ノ余

長レト占シナス又戰場ニ駕ノ高名オスト云
モ余長ト云 其因縁ノ以テ不富貴ニツアラサ
ル山也故ニ一人ノ君ニ仕ヘテ繁昌スルモ又諸
人之尊敬スル山ナルカ故其所以シ以上ニ仕
テ繁昌シ 諸人ニ尊敬セラレ危キニ逢テ其
難シノカレモ守余長遠ナラハ 終ニ如意安樂
ニ 珍室シ 得ヘシトハ占シナル也 依之
最上之大吉相トスルモノ也 此は三ツ有ル時ハ日
月三ツ有ル時ハ三光ト云ハ 天兵ハ復除シ日月

廻り日本ハ富シク日月廻ルカ故ニ日月之正ト
イスルモノ也ミツアレハ日月星ニ象ニテ三光
之正を相ノ甚大者相トスルナリ然レ珠目
不正ハ惡ナリ

○華粧ノ正鼻皮掛コリ一寸ハカリ上ニ有
受教アリテ萬民伏ス本性ノ人駕テ大
吉也 ○是ハ鼻峯ニ有也人シ譽言ニモ
鼻峯之通りテ美キナト、稱美ス又
鼻ハ花ヨリ呼ノ訓ナリ美キト云心也故ニ

其折ニ在正ナルカ故ニ華粧ノ正トハ号ル也
美キハ人是シ稱美スルカ故ニ受教アルヘ
ト云受教アラハ万民伏スヘト云義理
ニテ右ノ如クト云シナス下ナリ又本性ノ人
第メ大者トハ本性ノ正ナルカ故ニ其理ヲ立タ
ル下也華ハ花也從ハ色トト読時ハ華ニ
色一際美クハ其本性ノ人其木花ノ同
ナ猶其運シ同キ望相叶繁昌モト
ノ心ニテ大吉相トハスルモノ也

○愛相ノ近鼻望ノ上ニアリ主君ニ縁アリ
士卒思付也酒宴ノ相有人金性ノ人駕
シテ大吉也 ○是ハ華粧ヨリ下リ鼻ノ
上ニアル近ナリ故ニ華粧理ヒトシクアイ
ウレキト云大和ノ詞ツ以テ其縁トノ
鼻ノ上ニアル近ナルカユハ愛相ノ近トハ
早ルモノナリ此名ニ依テ愛相アラハ主君
ニ縁アルハシ又大人ナラハ士卒愛相ノ君ト
ナルカ故ニ思ヒ付クハシ又愛相アルハ人ヲ饗

應ノ相ナルカ故ニ酒宴ノ相トハ右シナレタ
夏也又金性ノ人駕メ大吉トハ鼻ハ肺経
也肺ハ金ヲ主ル其処ニ悦ノ相ヲアラハスカ故
ニ金性ノ人駕ノ福悦ノ相アリトハ相タルコ
ト也

○富門之近兩吻ニアリ富来門ニ作ル貨福シ
得テ家富也大吉也 ○是ヲ富門ト号
ル夏ハ口ハ五穀ヲ腹中へ入ルノ門也穀ヨ
リ余ヲ誦テ辨シ養ヒテ身富スルノ内成
ルカ故ニ口脇ニ有テ精ヲ富門ト号タル

夏也 富来門ト云モ右ノ心ナリ 穀腹内一
入ル、ソ 指テ来ルト云故ニ富来門ニ亦作也
故ニ貨福ヲ得テ家富ルトハ外ヨリ内ニ程
来テ宝蔵ニ満ルノ相ト占シナレテ大吉
相ト相スルナリ

○陰陽之辻類ノ角ニアリ夫婦繁昌子孫長
久国土安全ノ大吉相也 角ハ門也陰
陽日月ノ眼ノ上ノカトニアルカ故ニ陰陽ノ
辻トハ号ルモノナリ 故ニ夫婦繁昌ノ相ニ
取テ吉トス夫婦繁昌ナラハ子孫長

久スヘシ子孫長久ナラハ己カ持国ハ永々子
孫ニ傳ハテ国土安全ナルヘシトハ占シナレ
タルナリ

○固立ノ辻三日月脊折用ニアル病氣轉シ
テ堅固ト成五穀藏内ニ満ル大吉也皮
肉ニツノ辻ノ内也 ○是ハ固ヲ立ルト
読リ三ヶ月脊ヲ以テ咽ヲサレハサレテ固
ク立ル所ニアル辻ナルカ故ニ固立ノ辻トハ
云也病氣轉シ堅固トナルトハ三ヶ月脊ハ

胸蓋ト云也胸ハム子ト訓スム子ハ心ノ主ル所也
其心ノ穢不淨危キモノヲ適レ捨ルノ蓋ト
云ヒテ胸蓋ト云也胎内ニ宿テ居ルアヒタ
惡水惡食シノカルモ右ノ蓋ヲシホケテ
アルカ故也此ト其胸蓋ニ附テアルカ故ニ心
命ノ危キ衰ヲ除ルトナルカ故病元轉ノ
堅固ニナスト云フ也又五穀藏内ニ満ルトハ
三月月骨ハ腮脊ナルカ故ニ穀ヲコナシ脾胃
一納ル門ナリ故ニ穀藏内ニ満ルノ相トハ占

シナレタル衰也皮肉過三内トハ三月月骨ノ
所固有テ皮肉ニカクレテ外ヨリ見ヘカ
ルトナルカ故ニ皮肉ノ過トハスルモノ也
○近來之ト兩頬ニアリ此馬ノ心大コ勇ニシテ
驚動スルヲナレト仕ヘテ縁アリ下ニ
達テトニ隨フ善慶日トニ來ル大吉也皮
肉ノ過ノ内也○是近來トハ千カクキタ
ルト書リ此ト兩頬ニ有テ向トイナヤ先表
ニ見ヘテ吉相ノトナルカ故ニ此馬ニ乘トハ

近ク其吉支又アラント云々ニテ近未之辻ト
云也又其馬ノ心大勇トハ顔骨ノ塚ニアルトナ
ル故也顔骨シ悍骨ニ作テ此骨アレテ肉
ニ陰レス見ユルヲ指テ上悍ト相スル也其悍
ノ相シ顔骨ノ所ニアルトナルカ故ニ以
馬ノ心大勇ニノ騷動スル支ナシトハスルモノ
也上ニ仕ヘテ縁アリトハ匹夫ニテモ大勇ノ武
士ナラハ官録シ得テ賤身モ其大勇ニ依
テ上ニ仕ヘテ塚アルヘシトハ云也又下ニ逢テ

上ニ随フトハ上知勇ナレハ下ノ勇者シ知テ人
シ奉用ヒハ固々ヨリモ能キ人ハ隨身シ不招
人来ラハ固段ハ廣クナルヘシトノ支故ニ曰
ニ善愛来ル相ト占シナレテ大吉相トハスル
モノ也此トモ顔骨ノ塚ノ肉ニカクレテ有
故ニ皮肉ノ辻トハスルモノ也

○津渡文辻糖セ、リニアリ諸人愛敬吉相也流
外ニテ以旋ラ羊相ニ取テ並曲及振ノ馬トス
大成語也口傳 ○是ハ馬ハ糖草シハハニ
上口シルニテエウシ、向齒シ以テ夫シクカ

切テ己カ畔田ニ隨テ津淺喰也故ニ其食
シ津淺喰糟セリニ有カ故ニ其各トス諸
人愛敬吉相トハ。鼻ノアノラシキク愛敬
ノ相ト人相ニモスル也故ニ其理ヲ以鼻
ノ先ニ有テナカユニ右ノ如クヤシテ
吉相トハスルモノ也。此トノ他流ニテ半相
トメ曲解ニ取ル誤也此トノ至理ヲ知カ
故也此トハ馬毎ニ有テ也天性ヨリ
備ルテナルカ故ニ半相凶相トスモ此ス
生分ト成カ故ニ當流ニテハ是ヲ吉ト相ト

ル右又也口傳云モ右ノ古又ナリ又外ニ傳有也

○帶田ノ下ノ下ニアリ五穀藏ニ滿富貴ノ相
也流外ニテハ是シモ半相ニ取テ水ヲ得ヌ
馬ハ云ヘリ口傳 ○是ト帶田ト文字
シタハハ帶田ト云フ 鼻草ノ帶 細猪
四筋顧ノ下ニカニル其所ニ有テナル故ニ田ハ四
シ閉ルヲ以田トスル也 鼻草ノ小猪ハ帶ニ象
ニ帶田ト云也。五穀藏ニナルヲ福貴ノ相ト云フ
ナスキハ物ヲ食フ又ヨロシキ馬ト相タル也
穀ヲ食テ口ノ中ニ留保ッテ其味ヲナレテ食
ハ賜ナリ賜ハ顧ノ下也五穀ヲ食テ保テ味ヘテ

腹内へシサケル其顯ニ有テナル故ニ五穀藏
・亮トノ福貴ノ相ト占ラズルモノ也又流外
ニテ是ヲ半相ニ取テ水ヲ得スト云モ誤
其理ナレ顯ハ三日月骨ヨリ統タル骨ナリ
三日月骨ハ肺經也肺ハ金也故ニ金生水
ノ理ヲ以當流ハ水ヲ得ル馬トノ吉トスル
ナリ是ヲ以テ口傳スルナリ

○ 愛憐ノ辻面側ニアリ神馬奉納誓願等
ノ蒔草之大吉也 此辻愛相草
粧ノ賜ニアルカ故ニ其縁ヨリ号ルモノナリ

又神ハ教ニ依テ其人ニ愛憐シ垂玉フト云フ故ニ
愛憐ノ辻ト云フ号ノ縁ヨリテ 神奉納誓願草
牽之コレト云モノナリ亦一説ニ愛憐ノ辻ト面
ノ側ニアルシ云下ハ生ル日ヲ以テ祭ル神ノ像
シナス時ハ左面ニシ死レタル日ヲ以テ祭ル
像シナスハ右面ニナスカ故ニ其面ノ側ニ
ルカ故ニ神ノ像ニヨルノ辻トメ是ヲ愛憐
ノ辻ト号テ神馬奉納諸願等ノ蒔草ニ是
シ牽 馬ト云トナリ

○ 入存ノ辻喉ニアリ此馬脾胃強クシテ能物

ヲ食取願曰滿國土長久ノ大吉也帶櫻ノ旋
是也 ○是ヲ入存ノ辻ト号ルハ存ハ腑
ニ作り入ハ受ル字ニ作テ占ヲモナシタル也
是ヲ脾胃強ク能物ヲ食相トスル也其性
脾胃ヲ養良穀ノ道路也其所ニ其辻アル
ハ其性強キカ故ニ其性逆上メ辻ヲ顯ス
脾胃強キ馬トハスルモノ也漢ニ帶櫻
辻ト云フハ人ノ冠ノ紐ノ懸ル所ナルカ故ニ
コレナソラヘテ帶櫻辻トハ文字シタリタ
ルナナリ諸願曰滿トハ願ハ件ルノ心滿ハ成

就ノ心也帶櫻ノ字ノ理ノ以諸願成就ノ相トハ
スル又國土長久トハ入府ノ辻ナルカ故ニ其
國存ニ入テ盛ニ國ヲ治ント云心ニノ國土長
久ノ大吉相トハスル也ナリ

○昌門ノ辻胸ニアリ章門ニ作ル出行ニ難ナシ
友馬シ引テ乘ル子孫延余也火性ノ人
駕シテ大吉也 ○此辻胸ノ向ニアリ馬ニ
向ト先向ニ見ユル吉相ノ辻ナルカ故ニ敬系昌門
ニ作テ昌門ト云 敬系昌スレハ其門ヲ開テ榮
花シスル也故ニ子孫繁昌延余ノ大吉相ト占シ

ナスモ子孫繁栄ナラハ其子孫迄已ト共ニ馬ニ駕メ
繁栄ナルヘント云心ヨリメ友馬ヲ引テ来ル
吉相トスルナリ又章門ニ作ル友馬ハ章門ニ
キト訓スル也ヒトウニアツルノ心ノ文字也経書
等ニ一章ニ章ト記モ章ノ字ニ其一段ノ心皆
集合メリト云心也其文字ノ心ニテ集メ合メル
モノ多ク繁昌ノ心ナルカ故ニ昌門ヲ章門ニ作
テモ吉相トスル也出行ノ難ナレトハ等ク繁栄
ナル生ナルカ故行路之難山川海岳ニ其難不可有
ト相メ大吉相トスルナリ大牲ノ人駕大吉トハ响
ハ心経也响堂也心ハ火ヲ主テ明々然タリ夫ニ

大牲ノ人駕ハ猶明ニキタナキ友ハ家ニナク
テ皆繁昌ノ門ト成テ猶宜カラントノ吉又ニテナ
吉ト相タル也

○見受ノ辻胸ニアリ良馬ノ友ヲ引テ来ル戦場
ニ駕レテ録シ得ル大吉也素相ノ辻是也

△是ハ昌門ノ下ニアリテ向ニ有テ吉相ノ辻也
故ニ其佳慶ヲ見受ルノ相トシテ見受
辻ト号ル也故ニ古ニ良馬ヲ得ハ必ス其功ヲ
ナスヘシ功ヲナサハ録ヲ得ル故ニ戦場ニ駕
メ録シ得ルノ大吉相トスルモノナリ漢ニ素
相ト号ルモ祝テ相スルノ辻トメ吉相トスル也

○波切ノ辻襟同ニアリ此馬水ヲ能遊戰場ニ駕
シテ録ヲ得ル吉也流外ニテ半相ニ取ハ誤也
浪門トハ異也 ▲是江波切ト号ル也
ハ襟合ヲ入海ト云其上ニアル辻ナルカ故ニ
海ノ縁ニヨリテ其名ヲ付ル又水ヲ切テ遊
キ走ル時先向胸襟ニテ水ヲ切行ナリ其
処ニ在カ故ニ波切ト号ルモノ也故ニ古ノ
スニ水ヲ遊カハ河水ヲ渡レテ先ヲカクル
ノ相ナルカ故ニ戰場ニ駕メ録ヲ得ルノ吉
相トハスルモノ也流外ニ半相ニ取レハサセル理

ナシ凡吉相ト云モノハ蓬萊ノ辻ヨリ龜峯
ヲ通腮ノ下喉胸ヨリ南来ノ辻ニ至ル迄前
ノ脈通クニアルハ皆吉相也然ルニ波切ノ辻
ヒトツツ半相ニ取ルハキ理ナシ其上波切
ト名目ヲ下シテ水ヲ得タルノ相トスル時
ハ吉也半相ノ理ハナキカ故ニ當流ニテハ吉相
トスルモノナリ ○世ニホタテト云甚誤也
拍生ノ辻獲形ノ変也人馬相生勢余敏皇昌大亮
皮肉ノ旋ノ内也 ▲是ハ相取傳法ナリ
福相ノ辻鐘下ニアリ立穀家内ニ聚リ駕シテ五年

ニ必ス福来ル友馬ヲ引テ大吉也 乘鐘ノ旋是也
肉藏ノ旋トシテ皮肉ノ旋ノ内也 △是福相
ト号ル友ハ五穀ヲ著ル其所ニアルカ故也
其胃ノ脣ノ頭ニ卷也故ニ五穀ヲ付テ象内
ニ集リ来ルノ相トス五年ノ内必福来ルトハ
見度昌内入舟 柏生福相此五ツ休 脈ノ通
其陽ノ榮スル所ニ卷ク五ツノ大吉相ナルカ
故ニ五年ニメ 福来ルトハ相タル友也友馬ヲ
引テ来ルトハサイワイノ相有テ富ハ友
馬モ多ク来ラントノ義也 乘鐘トハ和漢

通名乗ル友馬数多少 駕サハ家富ムヘシト
ノ義ニテ 富貴ノ相トハスル也 肉藏ノ相トハ
ル下ハ前肢ノ肘ニカクレテ其相トシテアル
カ故ニ肉藏ノ相トハスルモノナリ 依之皮肉
ノ相ノ内在スル也

丑月ノ相 岐脣ヲ真中ニシテセウ連ル五行ノ
旋是也七ツアル時ハ七室ノ旋七星ノ旋ト
氏云也 以馬ニ駕ラ方シ嫌ハス故ニ移徒
婚禮入部ノ節 乗テ吉珍室家ニ来ル土性
ノ人乗テ大吉也 是ハ丑ノ日ノ相ト号

ル夏ハ五ツ連ルカ故也四ハ其卷日見ルハ云
心ニテ五ノ目トハ号ル也然凡一ツ有テモ五ノ
月ノ過ト云フ也又隣ハ解經也 瞬ハ土也
土ハ五行ノ母也故ニ天五ノ理ヲ取テ其
价ニアルヲ一ツアリテモ五ノ目ノ過トハ
スルモノ也又五ツ連ルヲ五行ノ過トモ云フ
セツアル時ハ七宝ノ過トメ七星ノ 過凡ス
ル也此馬ニ駕セハ方ヲ嫌ハストハ此ハ
木也南ハ火也水克火ト克ス東ハ木也
西ハ金ナリ金克木ト克ヨリ亦對待ス

ル夏又中央ニ土位スルカ故也土ハ五行ノ母ナレ
カ故ニ母ヲ以テ其子ノ中ヲ和クル其カク此
過アル 脾胃 気 強ハス土性 金ト相生スル故
ナリ土ヲハナレタル火モナレ土ヲハナレタル
金モナク土ヲ離タル水モナキカ故ニ皆
土ヲ以テ根トス 故ニ此ノ身ニ駕テハ四方
八面ニ行テ其難ナレ故ニ 秘徒方ヲキラ
ハス 婚礼ノ 幾千代ヲ先ノ人家ニ居レ
其難ナレトス又入部スルニ其国金神鬼門
ニアタルト云凡 此ノ馬ニ駕セハ右ノ 理ニ依

テ其難ナク最上ノ吉相トスル也移徒メ難
ナケレハ縁糸昌ス婚礼メ福ナル時ハ子孫
長久也入部ノ悪妻ナケレハ其国平均
是地性ノ全キ近ク得タル馬ナルカコヘニ
珍宝家ニ来ルノ吉相トハスル也土性ノ
人乗テ吉トハ其性ノ馬ニ駕スルカ故ニ吉
相ハスルモノ也

○ 間未ノ近美口ノ先皮白ノ内ニアリ夫婦ノ
和合レ子孫繁昌愛敬大吉也
陰脈ノ吉也精ノ終テ其精ヲ生スル所

ナルカ故ニ人及馬猛ニ至ル迄皆其所ニ旋也
スクハ所ニアルカ故ニ吉トス陰脈ハ小腸
腎ノ経也故ニ夫婦和合レ子孫繁昌愛敬
大吉トハ合シナスモノナリ

○ 芭蕉ノ近芭蕉毛ニアリ人馬相生勢余繁
昌大吉也皮肉ノ旋ノ内也若シ相生芭蕉
ノ二毛旋ナクハ特ニ悪シキ也△ニ重皮
ノ際ニ田皮ニカクレテ旋目アリテ逆毛
ニ生スルナリ 芭蕉ノ葉ノ如クナルカ故ニ

芭蕉毛ノ旋ト云也前ニ拍生シ生後ニ芭蕉
毛ノ生スル一何馬ニモアルモノナルカ故ニ
人馬相生命繋昌トハ白シナスモノ也此毛
旋ナキハ痔主惡トハ有ハキ毛旋ノナキハ
故ニ凶馬トス是無旋ノ馬トテ嫌フ也猶
口授有夏也

○脊正ノ辻折骨ノ際ニアリ山路ヲ能行火
災ヲ除ク水姓之人駕シテ大吉也賺花
ノ旋是也折骨トハ腰ヨリ股ニ至ル

○脛冷骨ト云骨ノ際ノ一カリテ出タル骨ヲ指シ
テ折骨トハ云也其骨ノ少シ下ニ有之辻也
腰ハ腎經ニ應又腎ハ骨シ司ル故其辻アレハ
其馬ノ骨相強クシテ山路ヲ能行キ火災
シ除クトハ右シナス也骨強ケレハヨク山路
シ行キ又腎ノ水正シケレハ火災ハナキ道理
ニテ其初トハスルモノ也水姓ノ人駕吉ト
云モ右ノ理ニ依テナリ漢ニ賺花ノ旋トスル
モ腎經ニ應スルカ故ニ水ヨリ木シ生メソノ
精甚盛ナルヘシト云ハニテ賺花ト名付タル也

○ 馴寄ノ辻心知シテ主ヲ知ル馬也人ヲ喰フトモ
大吉也 △ 是ハ目形ノ脊ノ下ツレ前ノヨリ
テアル辻也其所ニアル辻ヲ馴寄ト号ル夏ハ
人先馬ヲ見テ愛メナワレ所ニアルカ故ニ馴
寄ノ辻トハ名付又ナレサスラレハ自カラ
人ニ順フ也人ニ随ハ馬ノ心亦自然ト知ラカニ
成テ其主ニ順カ故ニ心知ラ主ヲ知ル馬ナリト古
クナス也人ニ順ハ人ヲ喰ラヘキ理ナキカ故ニ人ヲ
喰ハス尾相スル也
○ 鐘端ノ辻鐘ノ鳩胸ノ通ニアリ主必ス位ニ昇

ル吉相也踏出ノ旋トモ云也 △ 是ハ鐘ヲ踏
付テ出ス其先ニアル辻ナルカ故ニ鐘ノ端ノ辻
トハスル也乗鐘ノ辻ニヒトシキカ故ニ主必ス
位ニ登ルトハ相スル也鐘進テ前ハ出ル所ニ
アル故ニ位ニ登ルトハ占ツナス故ニ踏出ノ
辻尾相スル也
○ 所知ノ辻夜眼ノ節ノ上ノ脈ノ通ル外ニアル俸
禄ヲ得テ必ス入部ス諸願叶ヒ心ノ終也
大吉相也知領ノ旋トモ云也 △ 是ハ夜目
ハ陽明胃強ナリ夜日アル馬ハ眼精強

ク夜行ニ道路ノ疑ナシ其所ノ如シ上ニア
ルトナリ。○是ヲ相スルニ俸禄ヲ得テ入部
シ諸願叶ヒ心ノ倦也トハ陽明胃経成ルカ故
也骨ノ腑ハ食袋ナリ食ハ五穀ナリ其袋ハ
藏也陽明胃経ノ陽ノ発メ所ヲ知ラズ
カ故ニ俸禄ヲ得テ入部スルトハ古ヲナス
又諸願叶フト云モ夜日アルハ明カナルカ故
ニ諸願叶フトハ古ヲナス小河乗證カ相
取ニモ名譽ノトナクト相スルモ其下也漢ニ
知領之旋ト云是也

○朔分ノ迂向瓜ノ上ニアリ軍場ニ乗テ必ス勝利ヲ
得ル夫吉ナリ驅分ノ旋トモ也 ▲朔分ノ文字
損タルカ驅分又朔ヲ分ト文字シタムハヘキニ朔
ノ字心得カタレ 朔ハ初テト云ナリ 以テハ
馬ハ相スルニ一瓜ニ餅三心ト云ハ一瓜ヲ相スル其
初ニ見所ニアルトナルカユニ朔分ト文字シタム
シタルカ朔カスルト云訓ヲ付タルトハハシ以テ千里
ヲ行モ一歩ヨリ初ルカ故ニカケ行心ニテ云
ハルナルヘシ軍馬ニ乗テ勝利ヲ得ルトハ前是
ノ向瓜スル所ニアルカ故ニ進ハ人ノ先ヲカケテ
其勇也シキカ故ニ先スル時ハ人ヲ制後

九時ハ合制セラルト云語ニモ叶カ故ニ勝利ヲ
得ル大吉相ト占ヲナス也

○半相

○血醉ノ辻額ノ髪ノ生際ニアリ止熱スル馬ニシ
テ軍馬ニ嫌フ常棄シテ苦アラハス大駭馬毎
ニアル旋也若シ血醉ノ心ナクハ用テ吉也傳
△此ノ辻又レハ血ニ酔也トハ酒ニ酔ルモ酒ハ上
扱メ其後酔也其如ク此ノ辻アレハ上扱ス
ル馬ナルカ故ニ血ニ酔有血ニ酔ハ軍馬
ニ嫌トハ相スル也若シ血醉ノ心ナクハ用テ吉
トハ春始血ヲ下ス時酔心ナクハ吉ニトル

○位ニ上ル辻トヒトシキカ故ニ吉トハ相スル也口傳
ト云ルハ蓬萊ノ辻ト見テカイヲナスモノ也蓬
萊ノ辻ハ蓬萊ノ髪ノ向真中ニ有ル此ノ辻ハ蓬
萊ノ髪ノ下生際ニワキニ有ル辻ナリ
○面山ノ辻血醉ノ少レ下ニアリ定本ヲ見
スレテ村走ル馬也棄レテ目見シキ時ハ位
ニ昇ユル吉也散連毛ノ辻トモ云也 △是ハ
血醉ノ少下ニ有トイテタレ尾花ニハ爪ノ少レ
血醉ノ辻ノ脇ニヨリテ其下ニアル辻ナリ
膺角骨ノ目尻ノ上也世ニ云来カト云

所ノ角ヲ指テ各処ニ面山骨ト云也其
処ニアルカ故ニ其名トスルナリ其ノ過アレハ
足本シ見スメ村走ルトハ目尻ノ脇ニアル
カ故ニ其勢ニヒカレテ脇ニ心アルカユヘニ足
本シ見スメ村走ル馬トハ相スルモノナリ然
比乗メ其心ナクハ面ニアルトナルカ故ニ吉ニメ
出せノ過トメ位ニ登レ相ト合シナレタル
夏ナリ亦散連毛ノ過ト各付タル夏ハ
立髪ノ散連ナル所ニアルカ故ニ其名ト
スルナリ

○見上之過目ノ上ニアリ汗眼ニ入テ行先見ス
遅滞ノ馬也乗シテ宜キ時ハ諸人受教
吉也目田ノ旋或眉眼ノ旋トモ云也
是ハ曠角骨トマフタノ間目頸ノ方ニ有
過ナリ大概何馬ニモアルト知ルハ汗眼
ニ入テ行先見ス遅滞ノ相トスル夏ハ精シ
目上ニ発タルカ故汗ハ精シモシテ出ルカ故
ニ其汗眼ニ入テハ先キ見カタキ夏アラ
然ラハ遅滞ノ心アリト相タル夏ナリ然
凡汗遙ク月フタニ流ス夏ナリハ上ヲ見ル
ト云名目依テ諸人ニ受教セラレ吉相

トハスルモノ也月団ト云モテフタニフルカ故ナリ
眉眼ノ辻尾ニ其心トヒトシキ也

竹葉ノ辻耳ニアリ附蹄響蹄人シ威ス馬也

無夏ナル時ハ繁昌ノ相ニシテ吉也 △是ハ

耳根ノ上ニ有竹葉ノ辻ト云々夏身ヲ和漢

氏植物ニタトヘリ王良相馬怪ニ毛耳ハ竹ヲ

ソイテ天ヲ指スカ如シト駿相ニ説リ係ニモ

古ホノ尾ニ折タルカ如シト記リ故ニ耳ニアル

辻ヲ指テ竹葉トハ号ル也付蹄響蹄人シ威

ス馬ト相スル夏ハ畜類ハ耳ヲ以テ物ヲ聞

トカメ物ヲ知ル其所ニアル辻ナルカユヘニ

是シ其相トハスルモノ也然尾無夏ナル時ハ繁
昌ノ相トスル夏ハ竹葉ト云ヘル名ニ依テ吉
トスルト知ルヘキナリ

○伏兔ノ辻鞞ニ三寸ノ間ニアリ廻リカヌル馬

也乗シテ正シキ時ハ用テ吉也 △是ハ伏兔

骨ヲ兼テ前後ニアルカ故ニ其名トス其処ニ

辻アレハ其所ノ精強ノ頭ニラカレハカヘ

リカタルナリ故ニ廻リカヌル馬トト相スル

モノ也又乗メ廻廻リカ子ルマトナクハ吉ト

スルナリ伏兔ニハ大概馬毎ニアル辻ナルカ故

ニアルヘキノ理ニ乗シテ吉トハスルナリ

曹擲ノ辻 西吻ノ火ニ上ニアリ曹騎人喰或
銜心惡シキ馬也乗シテ宜ク無支ナル時ハ
用テ吉也 銜禍ノ旋啣渡ノ旋是也 ▲是ハ
曹ノ銜口ノカ、ル所ニアリ辻ナルカユヘ曹擲ト
ハスル也 其処ニアル故ニロムキノ相ニ取テ曹
騎人ヲ喰鑣心惡キトハ相スル也 乗メ宜
ク乗支ナル時ハ吉トス馬ハ曹シカムヘキ理
ニ乗シ牛ハ梟シノ貫理ニヨルカ故ニ曹ノカ、
ル処ニ有テ無支ナレハ其理ニ乗メ吉ト
スルモノ也 漢ニ銜禍ノ旋ト云ル支ハ銜ハ

含禍ト訓ス故ニ銜ノ禍ナラハ曹騎人ヲ喰ニ
銜心惡トハ相スル支也 又啣渡ノ辻ト相スル
支ハ啣モフクムト讀渡ハワタスト讀銜定
ラザル馬トハ相スル心也

○ 脛擲ノ辻 脛ニアリ息相ノ心アリ然レ馬毎ニ
アル辻也乗シテ息強キ時ハ大吉也 ▲息ハ
脱ヨリ出ル其息ノ道路スル脛ニ其精登ラ
ニキタルエヘ脛擲ト名附息合ノ相トハスル也
又其心ナク息合静ニ強クハ大概馬毎ニアル
辻ナルカ故ニアルヘキノ理ニ乗メ吉トハスルナリ

乳元ノ辻腋帯結取ノ際乳ノ邊也早ク勞ス
ル馬也悍能瓜能惣躰強馬ナラハ子孫繁
昌五穀家内聚ル吉相也 △是ハ乳元トハ

○乳ノ辺ニアルユヘナリ勞スル馬ト相スル支ハ乳
破ル時ハ其子ヲト只其母疲ル其精ヲ奪ノ
其所ニ旋タルカユヘ早ク疲ル相トハスル也
然凡悍能瓜ヨク強馬ナレハ疲ル支ナキ
カ故ニ吉トスル也人及馬モ乳ノ處ニ毛旋キ
アルモノ也子孫繁昌五穀家内集ル相
ト右シナス支ハ乳ヲ吞テ其子繁榮ス子ヲ

養ノ根アリ子ヨリ孫彦ヲ生スルカ故ニ子孫
繁昌ノ相トス又五穀家内集ルトハ赤子ノ
タメニハ乳ハ穀也故ニ穀家集ル吉相トモスル
モノ也

○蹄通ノ辻下腹ニ離レテアリ人ヲ踏馬也無支
ナル時ハ足強クシテ吉也扶危ノ旋是也

△是ハ蹄ハラヒヲスルトキ其蹄足ノ蹄ノ當ル
所ニアル故ニ足能キ足モ強蹄心アル馬ト
ノ蹄通ノ辻トハ号ル也故ニ人ヲ踏馬ノ相
トスル也馬ハ蹄足ヲ以テ馳ニテ是蹄倒スモ

ノナリノ角アルモノハ角ニテ争ヒ此角アルモノハ
鬐シ以テ争モノナリ是モ毎夏ナル時ハ足
強カ故ニ遠行ニ破ワル相トシテ吉トスル
ナリ漢ニ挾虎旋トスル也是ト馬人ヲ
誦殺シ兩足ヲ以テ屍ヲ挾ムト云心也
○破勢ノト芭蕉毛ノ上皮膚ニアリ夜行悪シキ
馬也乗レテ宜レキ時ハ吉也馳死ノ旋是
也△是ハ芭蕉毛ノ中ニ連リ有時ハ
不苦難レテアレハ破勢ノトノ半相ト云
ナリ芭蕉毛ヲ破テ上ニアルト云心ナリ夜

行悪キ馬ト相スル夏ハ芭蕉ト云ルモノハ夜凡
ニ其葉ヲ破ラレ、モノナルカ故ニ其コトニ
唯メ夜行悪キ馬トハ相スルコト也乗ノ
宜キ時ハ吉トハ夜乗テ道ニ迷ハス已カ家
ヲ知ル時ハ吉トスル也漢ニ馳死ト云下ハ
逆毛ヲ破テ出ル毛旋トスル故ニ屍ヲ馳
死見スルノ心ニテ云ヘリ又馳ハ絶シ見スル
心ニテ名付ト也
○猿登ノト尻股ニアリ友馬ニ荒ク人ヲ踏馬
也無古又ナル時ハ吉也但友毛生合タルハ

用テ吉左様ニナキ時ハ大凶也後喪門ノ
旋 是也 鵝鼻骨ノ上曲リタル辺ニ在
後此所ニ取付テ登ル所カ故ニ其各ト
ス友馬ニ立ル人ヲ踏トハ 踏ル後足ニ踏
タル工也 踏ル勢ナラ 強カラシト相タル
ナリ 無吉又ナル時ハ吉トハ 無吉ニシテ足キ
カハ遠行ニ疲レサル馬トメ 吉トス又友毛生
合タルハ用吉トハ旋ハナクシテ毛ノヨリ合タ
ルヲハ嫌フ人アリ ヨリ合タルハ足強キ相ニ
吉トナルナリ 過ニラサル故ニ相トモスハ

キ理ナシ今ク旋ヲ巻時ハ凶トナス又ハ前
喪門ハ嫡子ニ崇後ハ末子ニ崇ルト云ル
有ニ依テ前後トモニ喪門トシテ嫌フ也
漢ニ後喪門トスル故也然レ和ニ強テ又
ツ實トセサルナリ 馬駿ナレハ用テ吉トス
地境ノ辻骨正ノ下也 拖囊ノ旋トテ嫌ハ
トモ遠行ニ勞スレテ吉也 △是ハ地境
ノ文字ニ依テ其理ヲ解タルナリ 骨
正トナラヒタル辻ナルカ故ニ足ノ傷キ強ク遠
行ニ不 疲レテ吉ト相スル也 又地ノ境ハ山川

ヲ以共其國ノ境トス足強ケレハ山ヲ上リ下リ川
ヲ越スニ勞ル、夏ナレ。抱囊ノ辺ト号ル
ハ是モ重キヲ抱クノ心ニノ遠ニ達スト云
心ヲ以テ、漢名ニ号タル夏也

○沙流上ノ辺鳥从ヨリ下ニ厓後ノ方ニアリ
杏持惡シク鞞内能カラヌ馬也。乘レテ
宜シキ時ハ吉也。此辺アル馬ハ水ヲ得ル也。口
傳 △跡是ノ二ノ厓ニアルカユヘ其処
ニ氣凝カ故ニ其精強クメ足ヲ高取カ故
ニ踏付強クメ杏シ踏切杏持惡相スルナリ

鞞ノ内ヨカラスモ跡足高ク取ニ依テユリ上
ニ鞞ノ内モメテ穩カナテサル也。跡是取高
ケレハ已ト道路ノ沙ヲ踏上流ル所ナル
カ故ニ沙流上下号ルナリ。此辺アル馬ハ
水ヲ得ルトハ前ニテ水ヲカキ後ニテ
水勢ヲ踏テ行カ故ニ跡足高ク強ク取
レハ水ヲ能ケ切リテ行カユハニ水ヲ得
馬トメ吉トスルナレ也。然尼乘メ杏モ能
持テ鞞ノ内穩カナレハ猶宜ト相スルナ
ナリ

○凸相

○眼水ノ辻眼下ニアリ 其馬ノ眼生弱ク狭災アリテ患施ス大凸也 淚痕ノ旋偏同淚ノ旋凡云也 滴度ノ旋是也

△下ニフチヨリ一寸ノ間ニアル辻也 其辻アル馬ハ同シ淚又相トメ眼精弱トハ相スル也 災有テ愁施スト白シナス 吉又ハ王良相馬經ニ淚痕面ニ滴ルヲ滴同ノ施ト号ト云ルモ此辻アルハ泪ノ如見ユルカ故ニ

○憂ノ相トスル也 漢ニ淚痕ノ旋偏泪淚偏淚ノ旋ト号テ凸相トナス 夏モ右ノ理ト等キ也

○被門ノ辻目尻ニアリ 眼生弱ク物ヲ見テ危患ヒ狂動スル也 乘シテ患シ同凸相也 △是ハヒトヘノキストヨマセタル也 門ハ其所ト云シノ義也 淚ヲ拭ハヒトヘノキヌシ以テ拭ナリ 眼ヲ拭ニ目額ヨリ目尻ハ拭共手ノアタリテトマル也 凸ニ有カ故ニ被門ノ辻ト号テ眼精弱キトハ相スル也 物ヲ

見ルト云モ肝ノ氣弱キト相ナ物ヲ見驚
動スルトハ古シナズ也又驚動セハ危キ
アルカ故ニ憂ヲ聞凶相トハスルナリ
○頭中ノ辻騰蛇ノ旋トシテ凶相也△頭中
トアレヒ所ハ頭中ニハアラス世ニ云小トキ
ノ髪ヨリ取髪ト其兩方ノ真中ニニ
○髪ノ生キハニアルシ指テ云ナリ又漢ニ
騰蛇ノトト子ル右又ハ首髪ヲ和漢ニ植物
ニ鍛テ小松原ト云リ其中ニ蟠ル辻ナルカ故ニ
是ヲ騰蛇トスル也原ニ蛇ノシトリ云ハ凶ナリ

○心又文字ニ依テ凶相トスルモノナリ
○髪中ノ辻長干時ハ蜈蚣ノ旋ト云心忠徳央ノ
旋トシテ凶也△是ハ頭中ノ辻ニ俗ルハ
夏有ト云ヒ左ニハ蛇ノ頭中ハ髪際ナリ
是ハ髪中ニアルカ故ニ其名トスル也殊ニ
テ長ク表ハ蜈蚣ノ辻トスル也蜈蚣ノ這カ如
クアルノ心也又凶ニハ蛇蜈蚣アリ故ニ騰蛇
ノ辻ヨリ其縁ヲ求テ百足ノ辻ト号ナリ
心悪キ馬ハハ相スル也漢聽央ト云ハ聽
キク央ハナクト讀リ泣マラ聽ト云心ニテ凶

トスル也

○破門ノ辻頭中ヨリ下平頭ニアリ人ヲ損破
相トス或岸壁野原ニ行テ木草ノ内ニ馳
入テ驚動スル馬也大凶也 △破門ト返ル
頭中ヨリ平頭ニアルシ又凶相トスル也又ト
平頭ノ通ハ血脈升降正シクメ旋ヘキ理ナ
キニ其処ニ辻アルハ其升降ノ氣ヲ破ルノ
心成リユハ凶トスル也其正キ氣ヲ破ラハ憂ナ
ルヲアル故ニ人ヲ損相トスルナリ 又岸壁
野原トシテ驚動スルト占ヲナスモ在テシキ処ニ

○施モアルハ血脈経絡送ラサル故也経絡サ
タセラサレハ氣不正ナルカ故ニ野原ナトニシテ
不意ノ憂ヲナスヘキ相トシテ草木ノ内ニ
走り入驚動スル大凶ト相スル也又ナリ

○彼門ノ辻髪際ノ中ニアリ短余ノ馬ニシテ
主ノ命ヲ絶也山中ニ趣テ狂乱ス大凶相也
穿髮宗旋是也 △是ハ平首ノ髮
ノ中ナリ 彼ハ定ル難ト云心人ノ上ニ厄ト
云モ定ル難ト云心ナリ門ハ其所也髮
際ノ中ニアルヲ指テ如云フハ髮ハ生ス

ルヲ以テ長命ノ相トスシカレ共此ニ毛旋
アレハ鬚シ穿テ精ヲ破ル理ナルカ故ニ
漢ニモ穿鬚ノ旋ト号テ凶トスル也又也
又鬚ノ生ル精ヲ穿カ故ニ短命ノ馬トス馬
短命ナレ共凶自ト持主ニ痛メ思カレ
心ニテ主ノ命ヲ絶大凶ト台ヲナス也
又山中ニテモケテ驚乱又ル下ハ小松原
ノ鬚ノ中ニアル近ニテ其鬚ヲ穿カ故ニ山
中ノ惡雞ト相スルコトナリ

○絶原ノ辻取鬚ヨリ四五寸頸ノ方ニアリ乗
シテ切テ患ヲ同ク洞ヲ流ス馬ノ氣正シカ
ラスレテ水火ニ驚キ奔走スル馬也奔
狂ノ旋トモ云也盛後ノ旋是也 △絶ハ
タユル心流ハナカレ也是ヲ乗メ切テ患ヲ同
クト占ヲナスハ是シ流ノ辻凡号ルニ依
也乗人涙シコホセハカレ処ニアルカ故ニ
其名トメ山相トハスルナリ又馬ノ氣ノ正カラ
ス水火ニ驚トハ嘆ハ心ヲ傷メレハルモ也
流ハ水也心ハ火也故ニ水火ニ驚馬トハスル也

奔狂ノ辻ト号モ驚ク心アルカユヘナリ漢
ニ盛渡辻ト云モ憂盛ニアルト云心ニテ
大山ト云シナス也

○無門ノ辻押ヨリ也ト頭ノ方ニアリ主人ヨ
リ漢気ヲ得ル相ニシテ雷雨ノ節狂
動ス笠端ノ旋云也大凶也 △押トハ
取撥ノ色ナリ其所シ押ヘテ乗カ故也
無門トハ其所モナク勝レテ忌シキト云フ
心ニメ無門トハ号ル也無門ナラハ人ノ出入ナレ

故ニ出入ナクハ主人ノ動気シ得ルノ相ト
占シナスコト也亦是ヲ笠端辻ト云ルコト
ハ馬上ニ笠シカフレハ其雨リノ落ル所ニ
アルカ故ニ其名トス又笠シカフルハ面ヲ
隠ス心モアルカ故ニ動気シ得ノ相トスルモ
ノ也又笠ハ雨ヲ凌リタメモアルカ故ニ
雷雨ノ節驚動スル相トモスルモノ也
屋代カ凶ノ辻ヲ詭タル歌ニ

忌辻ハ矢復走門死トヤ
陸道侯笠ノ端ト知レトアル其辻内
ナリ

○押ノ辻取鬘ノ少レ脇ニアリ乗レテ心ス
 禍殃アリ大凶也 △人皆取鬘ヲ
 取押ヘテ乗ル所ニアルユヘ押ノ辻ト云也
 此辻ヲレハ其所ニ気疑テ正レカラサ
 レハ乗メ必ス禍ヲナスト古ヲナシタル
 コリナリ

○前塞ノ辻 腕平ミ脇ノ陽頭ノ方ニアリ戰場街
 路一切大凶也鎖喉ノ旋是也 △是ハ前
 ツ塞ルト読前ケサカレハ進ム気ナシ

○氣進ニカレハ惡故ニ戰場行路一切大凶トハ
 古ツナス也ス漢ニ鎖喉ト云ハ毒ノ引
 手ノヲタル途也ニアルカ故ニ其名トスル
 也馬徑ニモ惡旋ト記セリ

○遷喪ノ辻有平頭ノ方ニアリ持主病ナシ
 大凶也 △是ハ遷ハウツスト読喪ハ
 ウレ也故ニ持主病難ト占ツナス人
 ノ命ヲ絶ハマス病ニ依テナスス其名
 シモフケタルトハ前ニ喪門鬼門ト云シ

凶旋存其旋ニテツクイテ其近也ニ
アル也ナルカ故ニ喪門ノ縁ニ依テ名
付タルナリ

○勢門ノ迂遷喪ヨリ少シ下平頭ノ方ニ

アリ曲脾ニシテ人ヲ食フ凶也哲言文

ニ作テ敵ニ捕ハル相ニシテ大凶也

○是ハ勢門ハ門ヲ破ノ勢ニ取テ国ヲ失

ヒ家ヲ絶ツノ相トスルハ氣血逆外

テ以テシテ頭スニ破ル勢ヒ甚シキ憂

ノ勢アル相トメ勢門ニ作テ心不定馬ト
シテ曲悍人ヲ食相トハスルモノ也又哲言
文ニ作テ凶トナスルハニ度随ニテ心
アルマレキト云降参ノ時神文ヲ以テ
是ヲ免ス故ニ以哲言文ニ作シハ歎ニ因
ル相トメ凶トナス歎ニ圍ハルハ国ヲ
失ヒ家ヲ破ルカ故ニ其右トハスルモノ
ナリ

○喪門ノ迂胸ニアリ迂ニツアル時ハ及門
ニ作ル嫡子嫡孫ヲ見立ル下ナレ大凶也

膊ハ一肩奥持ニ

○ 喪ハウレハ門ハ所也此は馬ニ向ト先スノ
目ニカハリ見エル所ニアル是ヲ嫡孫ニタリ
ト相スル下ハ嫡子子孫ハ子孫ノ始メ其家
ノ面也此は始ニ目ノ付多ク一ノ処ニアル惡
旋ナルカ故ニ子孫ニ崇ルノ相ト占ヲナス
嘆患シナスハ是ニ越レタル嘆ハナキカ
故ニ凶トス又ニツアレハ患シテ双フルトテ
猶大ニ忌也
○ 鬼門ノ辻 ^{カタトカリ} 膊尖ト胸ノ境ニアリ喪門ヨリ

下ノ方也大方ニ旋連ル者也妻子ヲ失ヒ
所願成就スル下ナレ大凶也
△ 是ハ天地ノ鬼門ニ准メ其名トス鬼門ハ
北ト東トノ境 丑寅ノ方ヲ指テ鬼門トス
此は胸ト肩トノ境ニアルカ故ニ鬼門ニ
作也鬼門ニ向ハ妻子ヲ失フト云ヘリ天
地ノ氣正ニ強キカ故神ヲ祈ルニ其變
情加護少モナカルヘシトテ諸願成就ス
ル也ナレト占ヲナス下也
○ 浪門ノ辻 波切ノ辻ヨリ火ニ上ノ方

賜ニアリ水難シ得ル大凶也 △是浪
切込ハ向胸ニアリ水シ切分テ行処ナリ
故ニ吉トス是ハ其皮切ヨリ上賜ニ有カ
故ニ横ニ水當レノ心コレテ水難ノ相トス
水横ニ當ラハ押落サレト云心ヨリメ是
シ山ト合シナス也浪門ハ波切ノ縁ヨ
リメ号タル也

○弓箭ノ辻 左ノ脊ノ中ニアリ軍場ニ出
テ再帰国スルナシ敵ニ討ル也大凶也

△戰場ニ出テ馬上ニテ勝負シナスニ危
ト敵シ附ル其方ノ射向ニ有 恩

△旋ナルカ故ニ軍馬ニ出テ再帰国スル
下ナシト合シナス也

○多々死ノ辻 鞍下背脊ニ付テアリ唯死ニ
依ル棄レテ必ス落馬ス子孫シ亡ス大
凶也 △是ハ鞍下ハ陰ニメ陰也其陰

ノ所ニアルカ故ニ死相トス又多々死ノ又
字ニ依テ凶相トス又鞍下ニ気凝ルカ故ニ

鞆上正シカラスメ落馬ノ相トス落馬ノ
若己命ヲ絶ハ子孫シセノフノ端ナリ
故ニ子孫ニスレト占ヲナスリ也

○崩峯ノ辻海外レ後ノ方ニアリ下坂ニ向

テ躓キ倒レ細川ニ望テ惡ヲナス凶也

△崩峯ハ峯シクツスト荒リ後輪ヲ大

山吹ト云三頭ヲ三山脊ニ峯脊云リ

其四リニ過メ旋テナルカユハニ如ク号テ

凶相トス山ヨリノ氣ニ依テ下リ坂ニ向

テ躓倒レハ三峯脊ヲモキ崩ス古
アリ又細川ノ道路ノ難アリト占
ツナスト也

○哀門ノ辻破勢上後鞆ノ際ニアリ貧令

盜難アリ大凶也△是モ文字ノ心ニ依テ

凶トス哀門ナラハ貧令ノ相ナリ寶ヲ

ウレナハ其家衰ヘレト云心ニテ盜難ノ

大凶トナスナリ又破勢ノ上ニアルユハ勢カ

シ破ラハ勢イナシ勢イナキハ衰ナリ故破場

ノ縁ヲ求テ衰門ト号ル也

○對劔ノ辻脇腹ニアリ又ニ當テ必ス死ス大
見退見ニ作テ物ヲ見ル馬トス凶也常
劔ノ旋是也 △是ハ世ニ云切腹ノ辻是
也乘人ノ帯ル劔ノ鑊ノ當ル通ニ有ル
カ故ニ劔ヲ對スルト文字シタムヲ劔難ノ
相トメ凶トナスナリ又大見退見ニ作テ物
ヲ見ル馬トスル古又ハ其処ニ氣滞テ腸
氣不定ナルカ故ニ物ヲ見ル馬トメ嫌フ

夏ナリ馬経ニモ帯劔ニ作テ嫌フナリ
然凡五日ノ辻ヨリ連ラレハ五日ノ内ナルカ
コヘ不苦

○陸道ノ辻崩峯ノ邊平カナル所ニアリ
行路ニ冷テ難アリ上ニ難レ下ニ口説ア
リ大凶也且辻六ツ連ル時ハ六道ニ作ル也
△是ハ峯ユレテ平カナル所ハ陸地ナル
カ故ニ崩峯ノ縁ニ依テ陸道トハ号ル
ナリ以辻巻ハキ理ナキ所ニアルカ故ニ
凶トスル也峯ノ崩ルハ凶也其辺ニ

アルトナルカ故ニ峯崩レハウタレアママキ
アラント云心ニノ行路ニ難有ト占ヲナス
ナリ陸地ニ難アル相トスルカ故ニ上ニ
難遠国流泉ノ相トメ上ニ不吉アレハ
下ニ口説有在占ヲナス也又六アレハ
六遠ニ作ルト云ハ陰道ノ大遠ニ取テ黄
泉ノ導ク馬トソ備フ也

○退原ト目取ノ邊ニアリ山賊海賊ノ難アリ
大凶也 △是ハ崩峯ノ邊陸道ノ末ニ

アルカ故ニ退原ト云峯ノスツ陸地ノ真ハ
原ナルカ故ニ峯陸ノ縁ニ依テ退原ト
号タル也亦百會目取ノ骨ヲ指テ三
山骨ト云其三山骨ノ辺ニアル故ニ山ノ
スリハ野原ナルユハ此縁ニモ依テ号クト
ナリ。又以旋ベキ理ナキ所ニ有故ニ凶トス
退原ハ原ヲニクルノ心ナリ故ニ原ヲニク
ル山賊海賊ノ難有ト占ヲナス也
○矢負ノ辻石會ニアリ戦場ニ出テ利シ

矢ヒ予負莫惣別以馬ニ駕レテハ勝負莫
忽シ大山也弓矢ノ旋是也 百會
ノ迎トアレモ百會ノ右ノ方ニアルヲ
去以ノ処ト旋ヘキ所ニテナキカエハニ
函トスルナリ又古實ニ左大將之羽林
ノハ左ニ矢負。右大將ノ羽林ハ右ニ矢負
後ニ負ハ葬礼ニ隨身是 負テ函ト
スト有 其加後ニ負矢ノ當ルヘキ処ニア
ル工又ニ嫌ナリ又。戰場ニ趣テ進テ手

シ負ハ武士ノ譽也 逃テ後シ見セテ
手シ負ハ武士ニ 恥辱也 逃テ後
ヲ見セテ矢ヲ負ヘキ所ニアル逃ナ
ルカ故ニ戰場ニ出テ 利ヲ失ヒ手ヲ負
テ勝負トニ惡キトハ古シナス古也
又矢負ナルカ故ニ弓矢ノ逃 凡号ル也
不門ノ逃 百會ヨリ後賜ニアリ吉ト来ル
古又ナレ凶流外ニ戰鬥ノ逃ト云是也

△是モ旋マシキ所ニ有過故不門ト号テ凶トナス不ハナキノ心門ナクニハ何トメ吉トアラシヤ故ニ吉更末ルトナシトハ右ヲナス也 流外ニ是ヲ戰鬥ニ作テ戰場ニ駕メ利ナシト右ヲナス也

○雙門ノ辻尾口ノ兩脇ニアリ卒病ノ馬患ニ駕スヲ多シ凶也尾懸ノ旋トモ云也 △是ハ喪門トハ違ナリ尾本ノ際ニ付テ尾ノ方ニアル辻ナリ必ニツ並テア

ルカ故ニ雙門ニ作也雙ハナラフト荒大陰ノ跡ニアルカユヘニ凶トメ卒病怨ニ駕スト右ヲナス又ナリ又漢ニ尾懸ノ旋ト云モ尾掛ノ尾懸カハル所ニアルカ故ニ其名トス

○莒ノ辻尾ノ尖リヨリ尾口ノ方ニアリ不意ニ難ヲ得ル大凶也豹尾ノ旋是也

△莒ハフシ也尖リニアルト云フ心ニテ莒ノ辻トハスルモノ也其所書ニ出タリ是又大陰

所ニノ旋ヘキ理ナキ竹ニアルカ故ニ凶トス
不慮ニ難シ得ルト占ヲナスハ漢名ニ依テ
其理シ下ス也漢ニ豹尾ト云リ豹ニ逢ハ
不慮ニ難アラントノ心也亦豹尾ト云星ハ陰
星ニメ凶星也故ニ其星ノ理シトリテ
其号トスルト云フ説モ有也

○尾上ノ辻尾ノ中ニフリ毛逆立テ惡シ戦
場ニテ退ク馬トス凶也尾辻ト云也
△是モ又旋ヘキ理キラ處ニアルカ故ニ凶ス

又大陰ノ所ニ有テ人ノ目ニ立カエヘニ占ヲ
ナスニ武才早ク逃退カハ人ノ目ニ立
ト云心ニノ戦場ニテ退ク馬ト占ヲナス
了ナリ又尾辻ト云モ尾ニ在カ故ニ名
ル也

○七走ノ辻屁股ニアリ行路多ク道ニテ奔
走落馬ノ相七度大凶也△是ハ屁股
ノ内ニアリ腎ノ大陰ノ処ニカクレアルカ
故ニ是ヲ七走トスル七八老陽ノ數也者

走ラハ皆陰トナルヘシ陽負ケ衰古ルハ
落馬ノ相ト右シナスリ也 行路ヲ奪
走ノ落馬ノ相七度ト云モ右ノ理ト知
ヘシ是モ屋代カ忌止ノ哥ニ續ク

○死門ノ辻七走ノ少シ下皮肉ニアリ卒死
ノ馬主シ殺ス大凶ナリ △是ハ文字
ノ心ニ依テ知ルヘシ七走ノ陽走ツテ陰ニテ
ルニ亦陰ナレハ生滅タシメ寂滅ノ心ナルカ
故ニ是シ死門ニ作ル死門ナラハ生ル変

ナク乗テ急ニ死ヘキト云心ニメ卒死ノ馬ト
ス其卒死ノ馬乗ハ主ノ命ニ絶ヘキト
云フ心ニメ主シ殺ス大凶トハ右シナスコ也
○氣餘死ノ辻馬カノ陽ニアリ虚死ニ作ル詭
難鼠死之相大凶也 △鳥从ハ解ノ内ニ
テ未ナリ其下ニアルカ故ニ氣餘死ト
云タルコナリ 陰ニアルカ故ニ虚ニ
難ノ意ナルカ故ニ詭難鼠死ノ相ト右テ
ナス変也又鳥鳴ノ吉凶トテアルカ故ニ

其ノ一ニモヨリテ凶トナスコト也

○足腸ノ迂ニノ脛腸ニアリ沼堀ヲ越ス夏
ナレ舎人ヲ殺ス大凶也 △是ハ後
足ノ一ナリ是モ陰ノ所ニアルカ故ニ
嫌フ沼堀ヲ越ス夏ナレト云ハ鳥頭カ
クル、ホトノ沼ハ越ス夏ナレ其下
ニアル迂ナルカユハニシカ云ナリ又舎今
殺ストハ其所ニ氣凝テ曲蹙曲ヲナスコ
アルモノナリ故ニ右ノ右ヲナスコナリ

其ノ二ニモヨリテ凶トナスコト也

○芝引ノ迂皮膚前汗レホリト云ズニアリ
虫痛常ニ絶ス臥レテ起兼ル馬也
凶也 △是ハ芝シ付レハ其端レノ當ル
所ニ有ルカ故ニ芝シ付テ引ノ迂トスル也
又其所ハ汗レホリ流ル、カヌハニ世ニ又
汗レホリ凡云ナリ。以テ所解経ノ真中ニ
アタルナリ其解経ヨリ浸液セハ脾胃
衰ハ脾胃衰ハハ虫ヲ煩フコト切々ニレ
テ常ニ不絶伏メ起兼スル馬ト云フナス也

○皮門ノ辻 芝引ノ下ノ方ニアリ川臥ノ馬
ニレテ息相弱シ凶也 脈外ニテ小門ト
是ヲ云也 △ 是ハ皮腹ニ在ルト云心也又
水ニ入レハ腹ヲ浸スモノナリ其所ニ氣凝
テ悪キ相ナルカ故ニ川伏レノ馬凡云也
又息合弱シト云モ皮腹ノシトリヲ以テ
息合ヲ知ルテアリ 安驥集又桑嶋仲国
カ醫術ニモ立觀動トテ皮腸ノ動キヲ以
其病息合ヲ知ルテアリ 其所ニ有カ故ニ

息合弱シトハスルモノナリ 脈外ニ小門ニ作
ルハ馬ハ息合ヲ以テ第一トスルニ其息合
弱キトキハ大ニ加ハナキト云心ヲ小門ニ
ハ作ルト也
○右吉相二十五旋半相十三旋凶相三十二旋
合テ七十旋毛也 壽星帶纒紫端 衆
腎腺花ノ五旋ハ大吉トハ滴侯啣後聽哭
騰蛇穿鬚鎖喉喪門杖屍帶劍盛侯

馳驅豹尾弓矢後喪門抱喪ノ十五旋ハ
大凶也和漢是ヲ撰取捨スル也當流ニ
テモ世上一様ノ凡儀ニ異寄テ吉凶ヲ撰
フ也然レ駿馬ノ骨相フル馬ニ凶旋ア
リトテ嫌フヘカラス用テ吉也△此段ハ
吉凶ノ大意ヲ舉テ載タルモノ也吉ノ辻
アルヘキ所ニ在テ正レキハ吉也凶ハ正レ
カラス吉ニモアラス凶ニモアラサルヲ相
トスルナリ其特人徳アレハ凶モ吉トナル不徳

ナレハ吉モ凶トナル者也漢ニ寿軍ノ辻正
レケレハ凶モ轉メ吉トナルト云レモコノ
変也當流ニモ世上一様ノ凡儀ニ吉又ヨセ
テ吉凶ヲ撰取テ用ヰルニハ狀スト云レ
吉又ハ易经河図及日域ニテ天ノ班駟ニ
本ツキタル一匹クハ塩谷カ進ヌタル龜馬
ニハ四十二ノ旋モ在ト云フ其内ニハ吉モ凶
モ半相モアルヘシ駿馬ナレハ吉凶相兼テ
陰陽合体ノ理ヲ以テ吉トス凶トス有云トモ

待對メ相尅ノ理ヲ以云ハ吉也煩ニ行テ
相生スル大吉ナリ故ニ善旋正シク凶
相不正ヲ惡トス善旋ト云凡不正ナレハ
不且トスルナリ駿ナル凡天ノ生ル馬ナレ凡
万匹ニ三足時シ得テ生ス漢ニ騊駼ト
云モ千里ヲ行馬ヲ号ル也故ニ駿ノ骨
相有ニハ凶相アリトニ嫌フ莫ナレト
ハ説リ

追録

扶桑見聞私記卷四十五曰文治二年九月
七日庚戌二品由比ノ深澤ヲ懸觀シ玉ヲ
糸地タルニ依テ岡崎四郎義實献馱餉
御相伴ハ大庭平太京義因幡前司
廣元藤九郎盛長藤判官邦通等也
御酒宴割之間色々御雜談有以時
二品仰ニ曰馬之旋毛ニ付テ善惡有連
近代嫌フテ有古来ヨリ有来ル莫ニヤ否
御尋有一座ノ面々不在由申以時景義

用夏アリ罷立テ其座ニ不居依之召
出ス于時二品右ノ如ク御守有平太畏
テ云依馬ノ旋有吉凶ト申夏吉未ヨリ
俗説ニ申惟得共出所慎シ不在世俗
ノ申合テ近代馬ノ旋モニ付テ不吉ノ吉又
共粗惟得共無一偏ニモ難申カ御守ニ
惟得ハ辻モ次第荒増可申止必ス證ト
可被持ニアラス當時俗ニ嫌フ処ノ旋九

其書所記...
九

之前是人瓜ノ際向ニ有具證ヲ案スルニ云
スルニ去ル元曆元年三月六日本三位中
將重衡卿一之谷遁出戰場明石浦迄
落行処ニ梶原以下追掛重衡卿ヲ生捕
以時重衡卿ノ乳母後藤兵衛尉守長ト
云者ヲ乘替馬ニ乗セラル、中將ノ馬矢
ニ中テ倒ル守長ヲ見テ其馬進セヨト宣
ケレト聞又如ニシテ陰策ヲテテ逃去
タリ此馬ニ驅分ノ施有レカ果シテ修羅
ニ不逢連近代強ク嫌フ案ニ是馬辻モ

咎ニアラス守長生得勇ナク逸ル程ノ者
 ナレハ何馬ニ乗タリ共修羅ニハ可不産然
 共今日此日ハ如クシモ世人皆以為證
 一 喪門ニ此ハ胸掛ノ上ニアリ此逸ノ過
 皆同前也此ハ嫡子ヲ失ヒ且其身ヲ
 滅スト右末ヨリ中傳也平治合戦ノ時
 尤典既義卿御馬夜荒鹿毛也此ハアリ
 尤典既モ討レ嫡子悪原太殿モ被討玉
 フ又兼治四年庚子源三位頼政八道
 秘藏シケル木下麻毛ト云名馬ニ此ハア

リ然ルニ以下ナレハ不苦由相馬ノ者申依之
 入道必藏シテ置レケルヲ嫡子伊豆守仲
 綱領ニ所望シテ立嗣平宗盛卿平所
 望ヌ如馬ノ夏ニ依テ頼政父子起乱軍
 シニノ父子凡滅亡ス又仁王二十六代武烈
 天皇御宇平郡真鳥大臣ノ家ニ荒
 磯連各馬有此馬ニモ喪門ノ過アリ武
 烈天皇頻ニ所望スト能モ惜テ不出
 帝怒大伴金村ニ數千ノ兵ヲ差添
 先真鳥ノ嫡子齋大臣ヲ討テ後真

鳥ノ大臣シモ誅ス西宮記ニモ見ヘタリ
又承治四年八月廿三日石橋山戦ノ時
北条時政ノ馬ニ以テアル駿馬アリ
橋子ニ帝宗時以馬ニ乘敗軍時乘
京ニ下リ終ニ平井ノ御ニ伊東祐親
ニ圍レレ軍兵小草井ノ名主記六
久重カ為ニ被討取タリ如斯古今
不吉之例ヲ以テ近代此トテ嫌フ也
一 歎嘆旋或ハ嘆吐凡云以テアル馬シ飼
ハ常ニ愁アリト云リ治承頃新大納言

成親ノ方ニ白浪連各馬アリ秘藏ス相
一 馬ノ者以テ悪シキ必可有愁飼テ益
ト論ス成親公美馬ノ以テヨウテ愁有哉
トテ飼之成親隠謀ノ企露顯シテ其
身ハ被教子息ハ鬼界嶋ハ流ル常々
愁アリト世人證エトス
一 見上旋以旋アル馬ハ必汗目ニ入テ不見
故ニ軍馬嫌也上月縁ニ有ル施也
一 笠端ト以テ有馬主短命也ト云リ或
愁多トモ云リ愁メ髪中ト云リ下ハ

忘_レ也上ノ方ハ不苦押取ノ上方ニ有
一 辻也乘人笠ヲ着テ其笠端ニ當ル
所ニアリ都笠端辻ト云

景義私曰應永三十二年二月二十七日
足利將軍義量卿御息愛シ玉
ノ五日海波ト云各馬ニ此辻アリ將軍
此馬乗給テ落馬シテ則薨御ト云
于時十三歳ニ短命ト可謂
一 押施此辻乘人涙流テ度々有リト云
或愁多ト也押取ノ毛ノ下ニアリ元曆

元年二月根別一各軍ノ時正ニ位修理
大夫經盛ノ馬ニ袖狹ト云馬此辻有
一 岩落城ノ時經盛舎弟薩摩守忠
度被討テ愁ヲ用次ニ經盛ノ息但馬
守經正舎弟大夫敦盛皆討死スル
段シ諾束テ愁ヲ聞涙ヲ流也近頃
是以為證
一 矢負辻又陸道ト云テ此戰場人馬廿必
手負ト申傳也此辻ハ三途之邊ニア
リ惣シテ此所ヨリ尾口迄ハ皆矢負

述ト云也 仁王四十代天武天皇大友
大皇襲サセ給ヒ御馬ノ方ハ落サセ
給シ時流矢来天皇ノ御背ニ當リ
不搔裏又矢来マノ北背ニ當リ然レ天
皇薄手ナレハ御食無異是コリコ
所シ矢背里ト云又元暦元年木曾
義仲 法住寺殿ト合戦ノ時天台ノ座
主妙雲僧正矢負ノ述有馬ニ乗給カ
流矢ニ中テ逃死ス亦仁王六十六代一
岳院ノ御宇長徳二年花山法皇畿内

近国シ巡見而後京都ニ帰リ舊司四君ノ姉三君
ト云女房ノ方ハ攝政関白通隆公ノ長男内大臣藤
原伊周密通ス其頃法皇ハ平惟時ノ献上シ
タル駿馬ニ乗玉ヒ通玉ヒ又伊周ハ法皇ノ三
君ノ方ハ通玉フト思ヒテ舍多中納言法家
ト相謀テ月ノ夜法皇忍テ矢ヲ放ツ其矢
一御脇ニ中ムト云凡薄手也法皇驚逃去
玉ヲ以テ又御詮義有ヘケレ凡御法辨ノ御夏也
殊ニ御修行之砌ナレハ人嘲シ詈玉ヲ深カクレテ
凡其ト世ニ流布レ伊周ヲハ筑紫ヘ尤遷レ舍多

隆家ヲハ出雲國ハ配流セラル去ハ彼法皇ノ召サレ
タル御馬ニ矢負旋有是等シテ證下シテ後人此
迂ヲ忌也

一七茲旋以旋アル馬ハ七度葬馬ニ出ト云リ古來ノ
證ヲ不知元曆元年豫州義経朝臣ノ大夫黒
下云馬ニ此迂アリ人々其馬ニ乗リテ古又無用ノ由
諫之豫州ノ云更ニ忌トナレ凡勇士戰場ニ出
時ハ死ヲ幸ニシテ生ヲ不來義経討死セハ幸
ノ葬馬也戰場ニトニ此馬ニ衣召然ルニハ八
嶋惣門ノ侍ノ軍ニ依薩ニ帝继信ハ盛

嗣ノ矢ニ中リ討タレ又豫易喪賜ノ余リ
大夫黒シ以继信カ葬馬ニ幸ル平家
悉滅亡ノ後讚別任人山田四郎定則ト
云者彼馬ノ下聞ソヨヒ求之必藏シテ
立飼然ニ翌年二月定則歿死シテ
二度葬馬ニ下ト云ハ仍近代猶嫌之
此迂ハ尾ノ本賜ニ有リ

右ノ迂古今傳之也
右之外列ニ無是ト申因ニレテ御覽
ニ可入由仰有リ依之景儀馬圖ニテ

旋毛記献之二品大ニ御感有テ則
轉馬臺匹ソ賜平太ニ及晚景ニ
還御有リト云々

十字録終

此の巻末ニ付テハ、御感有テ則
轉馬臺匹ソ賜平太ニ及晚景ニ
還御有リト云々

